

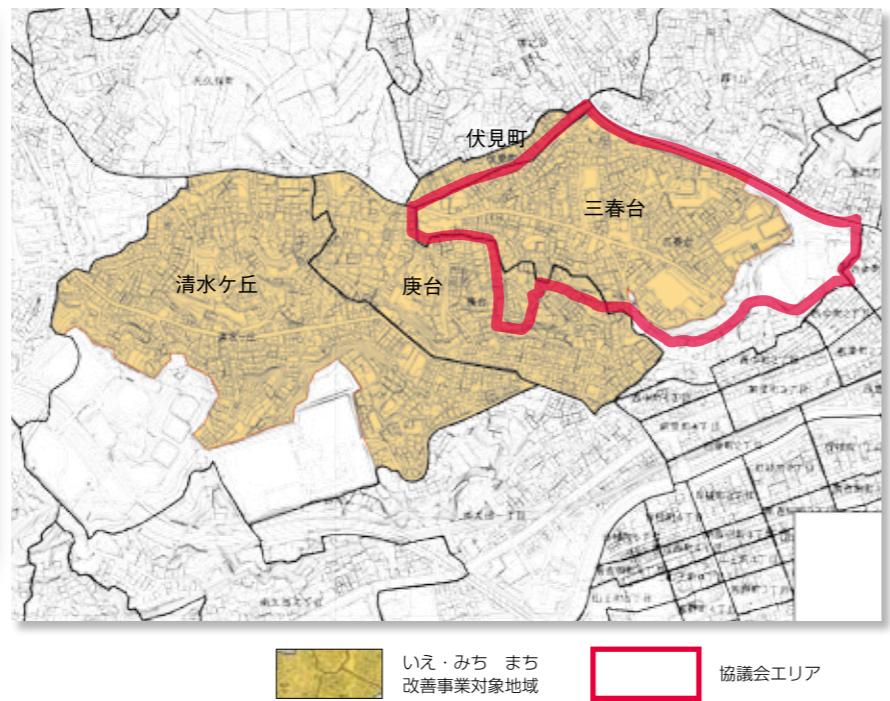
7. 三春台地区

みはるだい
高低差のある地形での避難と整備を考えた安心安全なまちづくり

●位置図



●区域図



●地域特性

三春台はその地名にもあるとおり、春には三つの花「梅・桜・桃」が一度に咲きほころぶ陽気の良い高台に位置し、多くの寺が立ち並ぶ古くからの寺町である。地区内には狭い道路や行き止まり道路が多く残るだけではなく、陽気の良い高台の反面として崖や階段も多く、雪が降ると移動が大変になる。

●地区諸元

協議会名	三春の丘まちづくり協議会
協議会エリア面積	22.7ha
人口	約3,400人 (H17国勢調査結果より集計・推計)
組織体制・メンバー構成の概要	役員会長1名、副会長2名、他8名 推進委員98名(役員を含む)
プラン名	三春の丘まちづくり協議会 防災まちづくり計画



●経緯

H16.7	勉強会スタート
H16.10	まち歩きを実施
H17.12	防災フェスティバル開催
H18.4～12	ヨコハマ市民まち普請事業へ参加
H18.10	「三春の丘いえ・みち・まち応援隊」発足(グループ登録)
H19.5	「三春台地域ナビ」スタート
H19.8	まち歩きを開催
H19.12	ふれあいバザーの開催
H20.2	防災訓練の開催
H20.3	「防災まちづくり計画(素案)」の完成
H20.11	「三春の丘まちづくり協議会」設立
H21.3	地域まちづくり組織として認定
H22.2	「防災まちづくり計画」の承認
H22.3	「防災まちづくり計画」のプラン認定
H23.4	住宅市街地総合整備事業着手
H23.4	いっとき避難場所の設置(2箇所)
H23.12	歩きにくい道の整備(舗装整備)改善

活動内容(活動成果)

- 勉強会スタート時から「まちづくりニュース」を発行し、各町内会の協力により全戸配布しているため、「勉強会」に参加していない住民にも、活動内容が周知されている。
- まち歩き、防災クイズラリー、起震車体験、防火水槽や消火栓を利用した放水体験、緊急給水栓の実演、家具転倒防止グッズの展示など、さまざまな防災イベントを実施し、多くの住民へ防災に関心を持ってもらえるよう取り組んでいる。
- 消防や警察にも協力してもらい、火災警報器の設置や振り込め詐欺対策など、防災だけではなく防犯も交えたタイムリーな話題を地域へ提供している。
- 計3回のアンケート調査を実施し、地域の声から地区の課題と解決の方向を整理して「防災まちづくり計画」をまとめ、平成22年3月に市からプラン認定を受けた。
- 平成23年4月、災害時の危険回避のため、一時に避難する場所である「いっとき避難場所」をエリア内に2箇所増設した。(東光寺、新善光寺と協定締結)
- 住民アンケートでも要望が多かった未舗装の私道について、平成23年12月に横浜市からの助成金を活用して舗装整備を行い、緊急時の避難通路として安全な通行が可能になった。また、平常時の買い物客等にも安全で快適に利用されるなど、地域の活性化への期待がもたれる。

私道の舗装整備



活動の中の工夫点

- 勉強会開催当初、人集めが最大の問題でした。そのため、ニュース発行以外でも、町内の掲示板で開催日を案内したり、各町内会の定例会でも発表の時間をもらい活動報告したりする等、周知に努めました。また、「勉強」という言葉に抵抗のある人もいたため、会の名称を「三春台地区まちづくり勉強会」から「三春の丘いえ・みち・まち応援隊」へ改名し、毎月の「勉強会」も「三春台地域ナビ」と名称を変更し、親しみを持つもらえるようにしました。その結果、今では「三春の丘まちづくり協議会」は地域の方なら誰もが知っているまでに定着しました。
- 町内会館の電話やポストを利用して、いつでも地域の方の意見を聞ける体制をつくりています。
- 「防災まちづくり」の活動の輪を広げるために、各町内会の班長さんにも積極的に協力してもらえるよう、町内会の規約も改正しました。
- 「防災まちづくり計画」の作成にあたり、分かり易さにこだわり、やさしい言葉やかわいいイラストで、まちの課題と解決の方向を整理しました。

三春の丘まちづくり協議会 防災まちづくり計画

計画の目標・方針

■ 基本的な姿勢

地震災害に少しでも強いまちを目指し、地域に暮らす私たち住民が内容を共有し、行政や関係機関と連携をとりながら、住民が主体的となって行動していく。

■ 方針

まちの抱えている問題や課題を解決するためには、必要と思われる行動を整理し、プロジェクトとしてまとめました。

【防災まちづくりのための7つのプロジェクト】

- プロジェクト1 安全な道づくり
- プロジェクト2 安全な避難経路づくり
- プロジェクト3 安全な家づくり
- プロジェクト4 防災の意識づくり
- プロジェクト5 新たな防災施設づくり
- プロジェクト6 助け合いのまちづくり
- プロジェクト7 安全なまちのルールづくり

計画内容の概要

■ 7つのプロジェクト

私達のまちの防災まちづくりをすすめるために、次の7つのプロジェクトを提案します。

プロジェクト1 安全な道づくり

道路幅員4m未満の狭い道路では、建物や塀の後退(セットバック)、交差点のすみ切りの設置、道路沿いのブロック塀を除却し、生け垣やフェンスへの転換を図ります。こうした取り組みと連携し、通行の支障となる電柱の移設や、危険な階段や急な坂道の改善につなげ、まちの防災性の向上を目指します。

プロジェクト2 安全な避難経路づくり

避難をはじめ、消火活動や救助活動の妨げとなる道路上の植木鉢や違法駐車をなくすとともに、行き止まり道路では、隣近所で協力し、逃げ道の確保を考えます。そのためには、自宅からの安全な避難経路について考え、皆で緊急時の敷地内の通り抜けについても話し合います。



プロジェクト3 安全な家づくり

地震による被害を減らすためには、家具の転倒防止措置をはじめ、家の耐震診断や耐震補強による家の耐震化や不燃化を検討することが大切です。そこで、個人でできることは可能な限り個人での対応を図り、必要に応じて、行政の支援を要請します。

また、放置されている古い空き家などは、皆で話し合い、家の所有者に働きかけます。

プロジェクト4 防災の意識づくり

地震災害への備えとして、協議会などで、様々な工夫をこらした防災イベントを企画し、防災の一層の向上につながる知識の習得や対策を考えていきます。防災イベントに必要な機材などは、必要に応じて行政に協力を要請します。

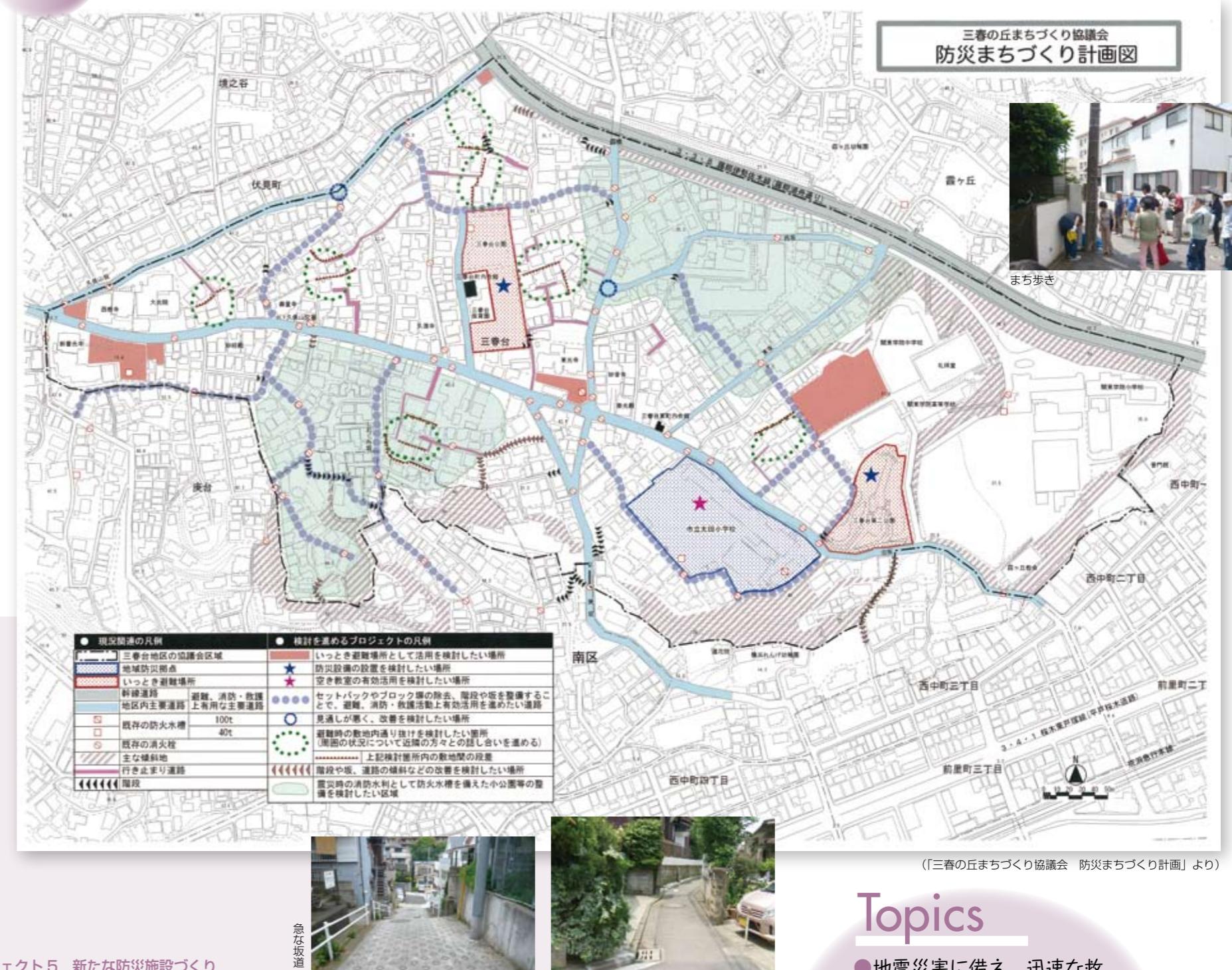
プロジェクト5 新たな防災施設づくり

地域でまとまり、防災の意識づくりを進めると共に、迅速な避難・消火・救助活動を行う上で必要な備品や防災施設についても、行政と協力し合って整備を進めます。

プロジェクト6 助け合いのまちづくり

災害時の避難に援助を必要とする高齢の方々がどこに住んでいるかを把握し、迅速な避難行動の実施を目指します。

計画図



高低差のある地形での避難と整備を考えた安心安全なまちづくり

Topics

- 地震災害に備え、迅速な救助活動のための道路拡幅、高齢者などの安全な避難のための崖や階段の改善や助け合い体制の整備のほか、地域の備蓄などが検討されています。

